2010年度ジャパンカップ規約

1. 参加資格

・満 15歳以上の心身ともに健全で、ジャパンカップ規約の内容に賛同できる者。
・大会の開催場所の河川において、自己責任（セルフレスキュー）で競技できる技術を有していること。
・参加者は大会主催者が提示する参加誓約書に署名できる事。
　参加者が未成年者の場合は保護者の署名を必要とする。
・大会主催者側が参加者に上記の資格が無いと判断した場合、その責任において該当チームの
　出場停止を命ずる事が出来る。

2. 参加登録制度

・チーム登録制とし、シーズン初参加となる大会の受付時にチーム名とチーム名簿を提出し登録とする。
・チーム名簿は1チームにつき最大10名までの選手登録を可能とし、
　シーズン中でも選手を加えることができるが登録選手を削除することはできない。
　また、参加カテゴリーを同じとする複数チームへの同一選手の登録は禁止とする。
・一度参加登録されたチームは以降自動的にカテゴリーポイントが加算される。
・年間選手登録料は2010年度シーズンにおいては撤廃とする。
・2010年度ジャパンカップカテゴリーは以下の4つとする。
　①R4（4人乗りラフト）オープン :男女混合で編成された4人チーム
　②R6（6人乗りラフト）オープン :男女混合で編成された6人チーム
　③R6男子 :男性のみで編成された6人チーム
　④R6女子 :女性のみで編成された6人チーム
・登録した補欠メンバーは主催者側の許可を得る事で大会中にメンバーの変更が出来る。
　但し、競技が開始してからその競技が終わるまでのメンバー変更は出来ない。
　スラローム、スプリント等の競技における 1本目、2本目でのメンバー変更は出来ない。
　上記に反した場合、そのチームは失格となる。
・各チームには 1名のチームキャプテンがいる事。原則としてシーズン途中での交代は
　認められないが、やむ得ない事情がある場合は協会に届け出ること。
　協会側が理由を正当と判断した場合に限り、交代は認められる。
・上記登録制度条件を満たしていないチームはカテゴリーポイントの獲得ができないものとする。

3. 装備規定

・使用するラフトボートは主催者側からの提供が無い場合には各チームの持込とする。
・但し主催者がラフトボートと認める物に限る。
・改造や修理などの理由で、購入時と形状が変化している艇については
　主催者にその旨を申告し、その判断に従うこと。
・ロープを使用した予備パドルやスローロープなどの固定は主催者側が安全性を点検し、
　認められれば可能とするが、身体を固定するなどの理由でのロープの使用は一切認められない。
・参加者は全員、急流での競技用に開発されたPFDを着用しなければならない。
・参加者は全員、急流での競技用に開発されたヘルメットを着用しなければならない。
・参加者は全員、カヌーラフティング用に開発されたシングルブレードパドルを使用しなければならない。
・参加者は全員、足を保護するシューズもしくはリバーサンダル、ブーツを履いていることが望ましい。
・競技参加チームはスローロープ、ナイフ、ホイッスル、フリップラインを
　ボートで最低1つずつ携行することが望ましい。
・大会主催者は競技前に使用ボートを含む参加者全員の装備点検を行い、
　上記を満たさないチームには大会への参加停止を勧告することができる。

４．ポイント規定

２０１０年度は以下の日程、内容でジャパンカップを開催する。

日程	名称	競技種目
第１戦（４月１１日）	多摩川大会	スラローム
第２戦（５月２２，２３日）	四国吉野川大会	スプリント＆ダウンリバー
第３戦（７月３１日、８月１日）	前川大会	スラローム＆スプリント
第４戦（８月２２日）	北山川大会	ダウンリバー
第５戦（９月１２日）	天竜川大会	ダウンリバー
第６戦（１０月９～１１日）	長良川大会	総合種目

＊各種目の獲得ポイント
（スラローム＆スプリント）

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15,16・・22,23	24以下
獲得ポイント	30	26	23	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10,9・・・・3,2	すべて1

（ダウンリバー）

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15,16・・29,30	31以下
獲得ポイント	40	35	31	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17,16・・・・3,2	すべて1

（総合種目）

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10から18まで	18	19から32まで	32	33以下
獲得ポイント	100	88	79	72	69	66	63	60	57	3ずつ減少	30	2ずつ減少	2	すべて1

５．年間ポイントランキングと世界選手権出場権について

・２０１０年度ジャパンカップでは第 1戦から第５戦までに各会場でスラローム、スプリント、ダウンリバーのレースを行う。各種目の合計に第６戦の総合種目のポイントを加えて、各カテゴリー内でのジャパンカップ年間成績を決定する。
※同一種目に2試合以上出場した場合はベストの成績（ポイント）を採用することとする。
・ジャパンカップ第５戦までの男子６人乗りならびに女子６人乗り部門の成績上位チームには、第６戦長良川大会内で開催される代表選考会の出場権が与えられる。
・この選考会で総合優勝した男女各１チームを２０１１年度コスタリカ世界選手権の日本代表チームと認定する。
・選考会出場のチーム数は男子8チーム、女子4チームとする。
・ボートは同一モデルを使用することとし、大会主催側で出場チームにこれを提供する。ボートのモデルは未定。（２０１０年３月１０日現在）
・R4オープン部門は第５戦までの獲得ポイントをもって年間順位を決定する。
・R6オープン部門は第６戦までの獲得ポイントをもって年間順位を決定する。
・R6男子、女子の両部門においては選考会出場チームを上位とし、選考会の成績をもって年間順位を決定する。
・選考会に出場しないチームは第６戦までの獲得ポイントをもって選考会出場チーム以降の順位を決定する。
・獲得ポイントが同点の場合はスラロームの成績をもって順位を決定する。
・各カテゴリー優勝チームにはチャンピオンベルトが贈呈される。

６. 競技規定

スプリント：

・コースはスカウティングが可能な場所である事。
・スタート方法ならびにレースの方法は大会主催者が水量や参加チームなどにより決定する。
　１艇ずつスタートのタイムトライアルを行いその後トーナメント形式の２艇同時スタート（H2H）で
　順位を決める方法や、１艇ずつスタートのタイムトライアル形式のみで順位を決める方法などがある。
・事前に主催者側からスタート方法ならびにレースの方法については参加者に明確な説明をすること。
・スタートは川岸または固定したポートなどにラフトのスターン（後部）を固定させ、
　審判員のスタートの掛け声で出艇する。
・ゴールはゴールラインをラフトの一部が超えた時とする。

競技ペナルティー
・ラフト上に競技者全員が乗っていない状態でゴールラインを超えた場合…50秒
・ラフトがフリップした状態でゴールラインを超えた場合…50秒
・他チームの妨害やスポーツマンシップに反する行為をしたと主催者が判断した場合…１行為につき10秒
・フライング…５０秒　2回のフライング…失格

スラローム：

・コースは約 500メートル以内の急流区間で行う。（降下タイム３～４分くらいの距離）。
・スカウティングが可能な場所である事。
・ゲート数は最低８個～最大 12個であり、最低２個～最大６個のアップゲートを
　左右均等に設置すること。
・使用するゲートの幅は２５０cm以上とする。
・各チーム２回の競技を行い、速い回のタイムが記録される。
　同タイムの場合は遅い回のタイムで判断する。
・スタートは川岸からラフトのスターン（後部）を固定させスタート審判員の掛け声で出艇する。
　ゴールはゴールラインをボートの一部が超えた時とする。
・ゲートは２種類あり、ダウンゲート（通常白と緑色）は上流側から、
　アップゲート（通常白と赤色）は下流側から通過する。
・ダウンゲートは1本ゲートを使用してもよいが、アップゲートは2本ゲートを使用すること。
　通過の際のボートの向きは問わない。

競技ペナルティー
・ゲートへの接触（選手の体、ラフト、服、パドル）…５秒
・ゲートの不通過（チームの一人でも通過しなければ不通過となる）…５０秒
・誤った方向からのゲート通過（アップゲートを上流から、ダウンゲートを下流から通過した場合）…５０秒
・誤った順番でのゲート通過もしくは接触
（次のゲートに先に通過、接触した場合はその前のゲートは無効になる）…５０秒
・ラフト上に競技者全員が乗っていない状態でゴールラインを超えた場合…50秒
・ラフトがフリップした状態でゴールラインを超えた場合…50秒
・フリップした状態でのゲート通過…５０秒
・ゲートを故意に動かした場合…５０秒
・他チームの妨害やスポーツマンシップに反する行為をしたと主催者が判断した場合…１行為につき10秒
・全ての競技者の頭部が通過しているかを判断する。
・各ペナルティーの複合は無い（例:接触し、不通過でもペナルティーは５０秒）
　すなわち、ペナルティーは1ゲートにつき0秒か５秒もしくは５０秒となる。
・次のゲートを通過、または接触しない限りそのゲートの判定は続けられる。
・試合用にセットしたゲートでの事前練習は認められない。

ダウンリバー：

・コースは約8キロ以上20キロ以内の急流区間。距離は水量や難易度によるが、
　時間にして約20～60分が望ましい。
・スタートは一艇ごとに間隔をおいても、複数同時スタートでも構わない。
　川の状況により主催者が判断する。
・スタートは川岸または固定したポートなどにラフトのスターン（後部）を固定させて
　審判員のスタートの掛け声で出艇する。
　または、川にスタートラインを設けて審判員の掛け声にあわせてスタートする。
・事前に主催者側からスタート方法については参加者に明確な説明をすること。

競技ペナルティー
・ラフト上に競技者全員が乗っていない状態でゴールラインを超えた場合…50秒
・ラフトがフリップした状態でゴールラインを超えた場合…50秒
・他チームの妨害やスポーツマンシップに反する行為をしたと主催者が判断した場合…1行為につき10秒
・フライング…50秒　2回のフライング…失格

7. 抗議

・抗議はレースの結果発表から 15分以内にチームキャプテンによって
　大会主催者へ行われなければならない。
・抗議する際には供託金として5000円を大会主催者へ預ける。
　これは抗議が認められた場合にのみチームに返還される。

作成 :2010年3月10日　日本ラフターズ協会